

I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2022年 8月 24日

テーマ「対面的なコミュニケーションの促進」

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)教務機構長
林 隆敏
(教務機構)

1. 長期戦略のテーマ

超長期ビジョン	長期戦略(テーマ名)	統轄部署
1 学士課程教育	(11) 対面的なコミュニケーションの促進	教務機構
内容		
<p>教育の ICT 化や AI の発達が進む時代にこそ、人間の感性に関わる営みの重要性が増し、実際のキャンパスで展開される直接的なコミュニケーションや、そこから生じる多様な体験の教育的価値が高まる。企業が採用の際に重視する項目として「コミュニケーション力」が第一に挙げられ、その比率が近年特に高まってきている。関西学院は、全てのキャンパスにおいて学生・教職員が互いに交流し、充実した時間を過ごせるように、仕組みや場所の整備を今後も促進する。</p> <p>特に学生はゼミナールを通して教員や友人との交流を深め、相互にさまざまな刺激を受ける。ゼミナールの活性化を重点戦略として“基礎ゼミ”の合宿等への財政支援やイベント企画のための学事暦の配慮、千刈キャンプ場の活用方策等を検討する。</p> <p>また、キャンパス内で学生が授業外学修を通じて交流する空間として、既存の大学図書館やラーニングコモンズだけでなく、学部ごとの事情に応じて空きスペース等を利用して改修したり、カフェラウンジを設けるなど“学生の居場所”を整備・充実させる。</p> <p>加えて、日本一を誇る美しさや豊かな自然環境に恵まれた学院のキャンパス自体が大きな教育的価値を有しており、学びと交流の基盤として位置づけ、その維持・継続を図る。</p> <p>【フェーズ I の Total Review】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部におけるハンズオン・ラーニングプログラム科目が設置され、多くの学生が取り組んでいるが、新規科目開発は伸び悩んでいる。 ・KSC および聖和における両コモンズの活性化が順調に進んでいる。 ・「ゼミナールの活性化」などについては、実施計画として特段の取組は行っていないが、全学的視点で活性化策を検討する必要がある。 ・ポストコロナを見据え、リアルな対面教育において如何に付加価値の高い教育コンテンツを提供していけるかが大きな課題となる(他大学、他学部との差別化も含む)。 <p>【フェーズ II に向けた課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハンズオン・PBL 型教育の学部での質を伴った拡大(専任教員による PBL 型授業設計と最前線の外部人材の活用) ・ハンズオン・PBL 型教育の拡充に合わせた教室、学修スペースの再検討 ・学生を夢中にさせる「学びのテーマパーク」を実現するための具体的な教育内容・手法・体制等の検討(対面を前提) 		

I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2022年 8月 24日

テーマ「対面的なコミュニケーションの促進」

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)教務機構長
林 隆敏
(教務機構)

指標 1

指標	内容					
指標名	コミュニケーション能力の向上度					
定義・算式	共通学生調査（IR1 年生調査・IR 上級生調査）の項目「入学後の能力変化：コミュニケーションの能力」の1年次における「増えた」+「大きく増えた」の比率と3年次における比率との差					
現状値 (指標設定時)	(2017 年度) 8.9 ポイント					
目標値	フェーズ1 終了時 (2021 年度)		フェーズ2 終了時 (2024 年度)		フェーズ3 終了時 (2027 年度)	
	14.0 ポイント		17.0 ポイント		20.0 ポイント	
実績値	2019 年度	9.3 ポイント	2022 年度		2025 年度	
	2020 年度	29.7 ポイント	2023 年度		2026 年度	
	2021 年度	9.6 ポイント	2024 年度		2027 年度	

I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2022年 8月 24日

テーマ「対面的なコミュニケーションの促進」

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	教務機構長 林 隆敏 (教務機構)
-----------------------	-------------------------

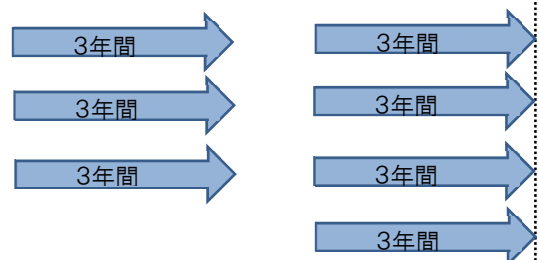
2. 実施計画ロードマップ

実施計画	担当部署	学部・研究科での 取組み有/無	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
① ゼミナール活性化の支援	教務機構	必要⇒【 選択型 】(学部・研究科が任意で取組みを選択)		計画凍結							
② 学部におけるハンズオン・ラーニングプログラムの推進	教務機構	必要⇒【 選択型 】(学部・研究科が任意で取組みを選択)		3年間			3年間			3年間	
③ (旧・中期計画：コモンズ展開の将来像を継承) 関西学院大学におけるコモンズ展開の将来像について～アカデミック・コモンズにおける成果に基づく西宮聖和キャンパスの連携～	学長室、神戸三田キャンパス事務室、西宮聖和キャンパス事務室	必要なし		3年間 (旧：中期計画)			3年間				
④ 「学生の居場所」の整備・充実	教務機構	必要⇒【 選択型 】(学部・研究科が任意で取組みを選択)		計画凍結							
⑤		↓学部・研究科での取組みの必要有無を選択ください。									
⑥		必要の有無を選択ください。									
⑦		必要の有無を選択ください。									
【備考欄】											

※想定される実施計画の例示

- ①. ゼミナール活性化の支援
- ②. “学生の居場所” の整備・充実
- ③.
- ④.
- ⑤.
- ⑥.
- ⑦.

※ロードマップ策定作業用記号



I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2022年 8月 24日

テーマ「対面的なコミュニケーションの促進」

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)教務機構長
林 隆敏
(教務機構)

3. 本長期戦略テーマの各実施計画に関する費用、人員の合計 (2019年度～2027年度)

◆フェーズⅠ：2019年度～2021年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2019年度	2020年度	2021年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計 (経費+人件費)			

◆フェーズⅡ：2022年度～2024年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2022年度	2023年度	2024年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計 (経費+人件費)			

◆フェーズⅢ：2025年度～2027年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2025年度	2026年度	2027年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計 (経費+人件費)			

I. 長期戦略テーマ別帳票

提出日 2022年 8月 24日

テーマ「対面的なコミュニケーションの促進」

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)教務機構長
林 隆敏
(教務機構)

4. 進捗状況等記入欄

	進捗状況および今後の課題、方向性
2019年度	ダブルチャレンジを推奨しているのは2018年度入学生からで、ハンズオン科目の延べ人数の単位修得者数は年々増加している。コモンズに関しては、2018年度に引き続き、KSC及びNSCコモンズで実施する企画に共通のコーディネーターを配置して学生支援を行った。両コモンズのコラボレーション企画を検討したが、テーマ設定等、学部間の調整が難しく実現には至っていない。
2020年度	KSC及びNSCの学生が対等に取り組み可能なテーマを設定し、両コモンズにてコラボレーション企画の実施を検討する予定であったが、コロナ禍にあって実現困難な状況であった。NSCではZoomを用いたアクティビティとして双方向型と対面式のワークショップを各1件実施し、KSCでは「リード・タイプ」、「SDGs・タイプ」各9件のプロジェクトを採択。Zoomを活用してオンラインで面談を行うなど学生の安心・安全に配慮しながら活動を支援した。
2021年度	KSC及びNSCの学生が対等に取り組み可能なテーマを設定し、両コモンズにてコラボレーション企画のオンライン実施について検討したい。
2022年度	
2023年度	
2024年度	
2025年度	
2027年度	